

With

東北大学病院
地域医療連携センター通信

第13号
2009.8

CONTENTS

- | | |
|--------------------------------|----------------------------------------|
| 1…… 新外来診療棟完成！ | 6…… 整形外科
～骨強度予測評価～ |
| 2…… 新外来診療棟のご紹介 | 7…… 認定看護師のご紹介
小児センターのご紹介 |
| 3…… 第2回市民公開講座開催！
カトレアの森のご紹介 | 8…… 新患日一覧
完全予約制のお知らせ
車イスが寄贈されました |
| 4…… 閉塞性動脈硬化症に対する
体外衝撃波 | |
| 5…… 産科のご紹介 | |



人にやさしく未来をみつめる

東北大学病院

〒980-8574 宮城県仙台市青葉区星陵町1番1号
TEL 022(717)7000(代)

地域医療連携センター

TEL 022(717)7131(直通)
FAX 022(717)7132



★ SPECIAL

新外来診療棟完成！

東北大学病院新外来診療棟がついに完成致しました。新外来棟は地上5階、地下1階で、既存外来診療棟の北側に建設され、7月7日には「新外来診療棟完成記念式典・祝賀会」「見学会」が盛大に催されました。

新外来診療棟は患者さんに「やさしい」「わかりやすい」外来を基本コンセプトとし、ゆとりある診療・待合スペースの確保、患者さんのプライバシーに配慮、大規模災害への対応にも考慮した設計となっております。

特徴としまして、これまでは別々の階に配置されていた産科・婦人科と乳腺・内分泌外科が女性の疾患を多面的に治療するため「女性センター」として新外来棟1階に集約されました。また、2階には「内視鏡センター」が新設され内視鏡診療の効率的な運用を図りました。それに加え、平成15年の医学部附属病院と歯学部附属病院の統合後も、外来部門は公道を挟んだ診療棟で別々に診療を行わざるを得ませんでした。新外来診療棟完成によ

て歯科部門が新外来棟3～5階に移転し完全統合することとなります。

新外来診療棟には8月より順次移転し、診療を開始する予定ですが、平成21年10月からは引き続き既存外来診療棟の改修工事に着手する予定としており、平成24年4月稼働を目指します。多くの温かいご支援とご期待にお応えできるよう、今後も東北大学病院の進化は続きます。



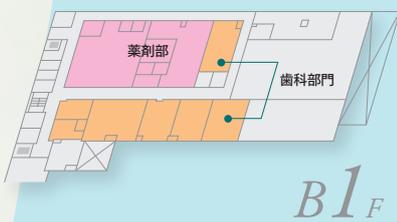
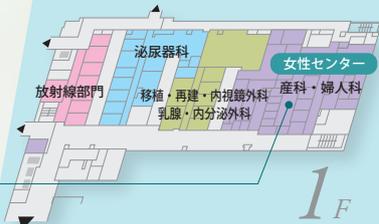
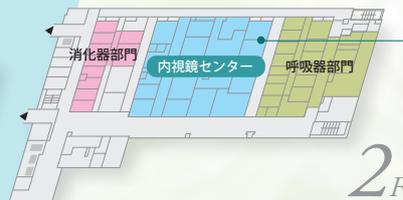
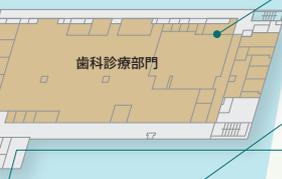
外観

計画の基本理念

患者の人間性を尊重した全人的医療と 高度に専門化した先進的医療の調和

- 女性の疾患を多面的に治療するため、産科・婦人科領域と乳腺領域から構成する女性センターを設置。
- 消化器内科、心療内科を中心に構成する内視鏡センターを設置し、専任の臨床工学技師による集中管理の下、内視鏡診療を効率化。
- 小児領域の診療科を1フロアに集約し、キッズルームを設置。
- 4・5階歯科診療部門では診療室と技工室を同一階に配置したワンフロア方式を採用。
- 患者さんと医療スタッフとの動線を分離し、プライバシーに配慮。

1F 女性センター



3～5F 歯科診療部門



3F 小児部門・採血・治療室



2F 内視鏡センター

新外来診療棟
フロア配置図

新外来診療棟の施設構成

※ 既存外来診療棟を平成21年10月～平成24年3月の期間、2期にわたり改修工事を実施。

既存外来診療棟(改修工事後配置図)

設備室		
眼科, 医療情報学分野, 総合診療部医局, 病後児保育室, 教室委員会, 治療センター, 多目的ホール,		
耳鼻咽喉・頭頸部外科, 眼科, 皮膚科		
脳・神経部門, 整形外科, 精神科, リハビリテーション部門, 臓器移植医療部	渡り廊下	
生活習慣病検診センター	消化器部門, WOCセンター, 一般・職員食堂	渡り廊下
老年科, 漢方内科, 心療内科, 循環器内科, 心血管外科, 腎・高血圧・内分泌科, 糖尿代謝科, 血液・免疫科		
正面玄関, 患者待合ホール, 医事受付, 医事課, 総合診療部, 入院センター, 郵便局, 売店, 患者サービスセンター, がん登録事務室, 地域医療連携センター, 防災センター	輸血部, 理美容	緩和医療科, がんセンター, 医事課
メディカルITセンター, カルテ倉庫, カルテ管理室, カルテ閲覧室, 診療情報管理室, 設備室		

新外来診療棟

設備室	RF
保存修復科, 咬合修復科, 歯内療法科, 咬合回復科, 歯周病科, 口腔機能回復科, 高齢者歯科治療部, 顎口腔再建治療部, 障害者歯科治療部	5F
予防歯科, 口腔診断科, 歯科顎顔面外科, 歯科口腔外科, 歯科麻酔疼痛管理科, 総合歯科診療部, 感染予防対策治療部	4F
小児部門, 形成外科, 小児歯科, 矯正歯科, 咬合機能成育室, 顎口腔機能治療部, キッズゲアールーム	3F
内視鏡センター	2F
呼吸器部門, 消化器部門	
女性センター	1F
放射線部門, 泌尿器科, 移植・再建・内視鏡外科, 乳腺・内分泌外科, 産科, 婦人科	
薬剤部, バラデンタルルーム, 患者資料収納室, 設備室, 監視室	B1F

EVENT

第2回東北大学病院市民公開講座を開催しました

6月28日(日)仙台国際センター大ホールを会場に「第2回東北大学病院市民公開講座・消化器病から市民を守るー東北大学病院の取り組みー」を開催しました。

当日は約600名の参加があり、主に仙台市、宮城県内からの参加でしたが中には県外からの参加者もいました。

講座は3部構成で行われ、第1部は消化器関連診療科の本院医師6名による基調講演、第2部は毒蝮三太夫さんの体験談、第3部は毒蝮三太夫さんも交え、9名でのパネルディスカッションが行われました。

約半数の参加者からアンケートが寄せられ、「分かりやすかった、

ためになった」「毒蝮さんの体験談は、ユーモアも交え面白かった、元気をもらった」「次回も参加したい」など大変好評を得ることができました。なかには「宣伝が足りないのでは」「講演内容の資料がほしかった」などの意見もあり、次回開催の参考にしたいと考えています。

別会場では、「ポディーコンポジションアナライザーによる栄養評価」「超音波による脂肪肝チェック」「医師、看護師によるお腹の健康相談」「カプセル内視鏡の展示」また、歯科医療センターも含めた「ポスター展示コーナー」も設け、たくさんの参加者が来場し、大いににぎわいました。



次回
予告

第3回 東北大学病院市民公開講座

- テーマ 「女性の病気を知り母性を守る
ー東北大学病院の取り組みー」(仮称)
- 日 時 平成21年10月17日(土)13時~15時30分
- 場 所 電力ホール
- 内 容 第1部 基調講演
第2部 かとうかず子さん対談
第3部 パネルディスカッション

※事前申し込みが必要となります。東北大学病院地域医療連携センターまでお申し込みください。

NEWS

婦人科がん患者会／カトリアの森

私どもは、東北大学病院婦人科医師および医療スタッフご支援のもと婦人科がんの治療を受けた患者が中心になって運営している婦人科がん患者会です。お互いに励ましあい、また病気について学ぶ機会を設けるなどの活動を通して、心の免疫力を高めていきたいと願って設立されました。

●茶話会

月に1回程度開催。患者の交流だけでなく、勉強会も行っております。医師や看護師、管理栄養士等のさまざまな方の協力を得て、「リンパ浮腫、バランスの良い食事、化学療法、放射線治療、心のケア」等の勉強会を開催してきました。普段の診療時には伺えない内容に、皆さん安堵し明るい笑顔で帰られます。最近開催したスタッフ考案の「タオル帽子」の講習では、簡単でかわいらしいと大変好評でした。

●相談窓口

不定期の相談窓口では、治療体験者と話せることで気負うことなく、言い難いことや伝え難いことを吐き出せる。治療を終えた体験者の姿に安心と希望を感じる、などの声か。

●会報・ホームページ

年4回発行の会報・随時更新のホームページは、遠方の方や体調の

都合で参加できない方に大変好評!

▶ホームページもぜひご覧ください。
<http://www.ob-gy.med.tohoku.ac.jp/patient-cancer/index.html>

●カトリアの願い

「自分らしく豊かに生きる」。その実現に向けて、この活動が医療者と患者のかけ橋となり、少しでも手助けができたならと願っております。

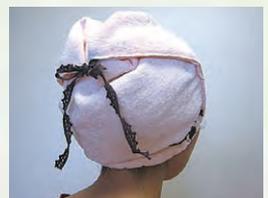
これからも、さまざまな勉強会を企画しており、今秋には院外にて「婦人科がんと漢方(仮題)」について講演会も企画中。詳細はホームページにて紹介してまいります。

●広がる活動

この程会長の郷内淳子が厚生労働省の『がん対策推進協議会』の委員に任命されました。全国の患者と家族の代表として、患者・医療者・行政『協働』のがん対策に向けて尽力してまいります。



会報



タオル帽子



茶話会での勉強会の様子

閉塞性動脈硬化症に新しい治療の選択肢

体外衝撃波治療とは

体外衝撃波、と聞くと真っ先に腎結石破碎を思い浮かべる人も多いと思いますが、実はそれ以外でも様々な分野で臨床に応用されています。1980年に腎結石破碎に用いられて以後、テニス肘や腱鞘炎など整形外科領域の他に、糖尿病による難治性潰瘍や疼痛緩和など様々な分野で臨床応用されるようになりました。近年になり、衝撃波の出力を腎結石破碎に用いられるものの1/10程度に弱めると、衝撃波を当てた部位で血管新生が起こることが新たに分かりました。これを利用して血流の悪くなった心臓に衝撃波を当て、狭心症の症状の改善を図る治療法を東北大学 循環器内科のグループが開発し良好な治療成績を収めております。現在、衝撃波を用いた狭心症の治療はヨーロッパをはじめ世界各地に広がりつつあります。

東北大学 移植・再建・内視鏡外科では、平成19年より循環器内科協力のもと末梢動脈疾患(閉塞性動脈硬化症やパーチャー病)にもこの作用を応用し、間歇性跛行などの症状を軽減しようという臨床試験を始めております。

衝撃波治療の特徴

体外衝撃波治療の最大の特徴は、体の外から下腿の筋肉に対し衝撃波を照射するため切開や穿刺などの侵襲的手技を必要とせず、麻酔も必要としないことから極めて安全性が高い事です。現在までのところ、体外衝撃波治療に関連した有害事象は報告されておりません。手術以外の方法で症状緩和を希望なさる患者さんや、全身の状態から麻酔をかける事が躊躇われる患者さん、またカテーテル治療やバイパス手術を行える血管がない患者さんにも選択可能な治療法です。

治療の実際

患者さんには無麻酔・完全覚醒の状態でベッドにうつ伏せになって頂きます。超音波機器にて下腿の骨や大きな血管を避け、筋肉に衝撃波が照射されるようにします(写真1)。1回の治療では下腿の筋肉40ヶ所に対し200発ずつの衝撃波を照射し(計8,000発)、1回の治療にかかる時間は休憩を挟みながら1-1.5時間ほどです。これを週に3回3週連続で行います。治療期間中は入院でも通院でも構いません。また、衝撃波照射にかかる費用は頂きません(通常の検査や入院費などは請求されます)。



写真1 治療風景

これまでの成績

当初は間歇性跛行を有する患者さんを対象に、週に3回の衝撃波治療を行い、3週間の間隔をあけてさらに3回の衝撃波を照射する計画で治療を行ってまいりました。治療前の最大歩行距離を100とした時の変化率のグラフに表したものが表-1です。1名で歩行距離の短縮が見られましたが5名で歩行距離の改善が見られました。また、歩行距離の延長のほかに、脚の冷感や痛みの改善などが観察されました。

平成20年9月からは治療計画に若干の改良を加え、現在は体外衝撃波の照射を週に3回3週連続で行っています。新しい

治療法での治療成績を表-2に示します。こちらも同様に、治療前の歩行距離を100としたものです。歩行距離の延長は治療を行った全員で認められ、また以前の治療成績と比較すると、治療終了後の歩行距離の延長効果の持続が明らかです。また、間歇性跛行以外にも、重症肢虚血に対しての体外衝撃波治療も倫理委員会の承認を得て行っています。

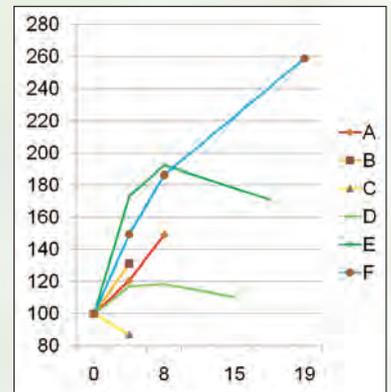


表1

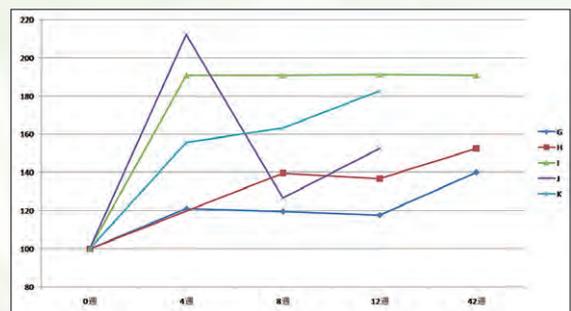


表2

間歇性跛行で悩んでいるものの観血的な治療には消極的な患者さんや、従来の治療法では満足いく効果が得られなかった患者さん、また外来でお困りの患者さんがいらっしゃいましたらお気軽にご紹介ください。当科では体外衝撃波治療以外にも血行再建術(バイパス手術)、放射線科にご協力頂いてのカテーテル治療、リハビリ科と共同での運動療法等様々な治療の選択肢を用意しております。患者さんの希望を尊重しつつ、最適と思われる治療を提供させていただきます。なお、折角御紹介頂いても倫理委員会の規定上治療対象とならない場合もございますので、ご了承ください。

体外衝撃波に関するお問い合わせ

東北大学 移植・再建・内視鏡外科

佐藤 成 (さとう あきら)

芹澤 玄 (せりざわ ぶかし)

● Tel 022-717-7214 (医局)

● Fax 022-717-7212 (医局)

● 電子メール 2nd-doc@umin.ac.jp

産科のご紹介

科長 八重樫 伸生 教授

産科の特色

産科は妊娠・分娩を扱う科です。新生児医療との連携により「母子ともに安全で、喜びを分かちあえる出産」をすることが最終目的としているなど、「治療」を目的とした他科とは違う診療科といえます。

昨今、仙台市内でも分娩施設が減少しており、また仙台市産科セミオープンシステムの導入も伴い、当院での分娩数は増加しています。平成15年に取扱った分娩数は498件でしたが、平成20年は822件となっています。

宮城県周産期医療システム

宮城県周産期医療システムは母児の安全な管理を目的としたシステムの中で、各医療施設が機能分担し全体で効果的に周産期医療を提供できるようにする体制のことを言います。

当院は現在、仙台赤十字病院、宮城県立こども病院とともに三次医療施設であり、重症例の受け入れや相談などを受けています。特に当院は充実した専門診療科や整備された診療設備を有することから、産科ショックや出血、合併症の悪化などを理由とした搬送を中心に受け入れており、平成20年には71件の搬送がありました。

合併症を有する妊婦の妊娠・分娩

昨今の晩婚化という社会的背景により初産年齢が上昇したり医療技術の向上により以前は妊娠許可されなかった合併症を有する女性が妊娠可能と診断されたりと本邦では合併症を有する妊婦の割合が増加しています。当院は大学病院という施設であることから合併症を有する様々な妊婦が受診しており、その数も年々増加しています。

合併症があったり双胎等のハイリスク妊娠であると自然な妊娠・出産を望めない傾向がありますが、当科では各種専門診療科やNICUとの連携により、少しでも自然な妊娠・出産に望むようスタッフ一同がサポートしています。



分娩室の一部では帝王切開や小手術を定期的に施行しています。

胎児疾患の早期発見と胎児治療

当科では最新の超音波診断機器を用いた出生前診断を行っており胎児疾患をより早くより厳密に診断できるよう努力しております。また、超音波ガイド下胎児診断、胎児治療を積極的に取り入れております。胎児採血、胎児輸血、羊水検査(染色体検査、サイトカイン測定による子宮内炎症の診断など)、絨毛採取などが主な手技です。



最新の超音波検査技術を用いて、より早期に出生前診断をおこなっています。

双胎間輸血症候群に対する胎児鏡下レーザー焼灼術

一絨毛膜性双胎において胎盤血管吻合により血流の不均衡が生じ児の間に供血と受血をきたす疾患を双胎間輸血症候群(TTTS: Twin to twin transfusion syndrome)と言います。1児は心不全、水腫、羊水過多を呈し、1児は循環不全、羊水過少を呈します。無事生児として出生したとしても脳性麻痺などの後遺症が残る可能性があります。当科では胎児鏡下レーザー焼灼術を取り入れ、基準を満たしたTTTSに対しレーザーによる胎盤血管吻合の遮断をすることで予後改善に取り組んでいます。



胎児鏡下レーザー焼灼術にて双胎間輸血症候群の予後改善を目指しています。

死産後褥婦に対する精神的サポート

医療技術の発達に伴い胎児に致死性疾患が発見されることがあります。妊婦にとって妊娠中は胎児を育むという喜ばしい時期ですが、その時突然悲観の時を迎えることとなります。

当院ではその様な妊婦に対し妊娠・分娩を無事終了できるように精神的サポートをおこなっております。妊産婦の精神的ダメージが分娩後に悪化するケースもあり、退院後はペリネイタルロス外来という外来を受診していただき精神的サポートを行っています。その時、精神的ダメージが強度と判断された場合はカウンセリングを受診するようすすめています。

外来新患予約制

当科では外来待ち時間短縮を目的として産科セミオープンシステム利用を含めた全ての妊婦新患に対し予約制を取り入れることと致しました。妊婦紹介の際には地域医療連携センターを通してご予約いただけますと幸いです。また、合併症を有する妊婦紹介の際は関連専門診療科への予約も同時にいたしますので、電話連絡いただけますと診察待ち時間を短縮することができます。



助産師外来を積極的に活用し、妊婦の不安を共に解決しています。

整形外科: ～ 定量的CTを用いた3次元有限要素法による骨強度予測評価 ～

整形外科 佐野 博高 講師
千葉 大介
高橋 敦

■はじめに

四肢や脊椎の骨折は、一般にスポーツや交通事故などの高エネルギー外傷で起こります。しかし、骨粗鬆症のある高齢者や骨腫瘍などで変形・欠損した骨では、ごく小さな外傷でも骨折を起こすことがあることが知られています。中でも、高齢者の転倒による骨折は現在社会的な問題になっており、お年寄りが要介護となる原因の第3位を占めています。また、骨の悪性腫瘍を有する患者さんがその部分の骨折を起こすと、痛みや機能的な障害だけでなく、生命予後も悪くなることが知られています。これらの骨折を予防するためには、それぞれの患者さんの骨の強度、骨折リスク(どの位の荷重で骨折を起こすか)をできるだけ正確に評価する必要があります。

骨の強度は、骨密度と骨質によって決まります。近年、定量的超音波測定法(QUS)や二重エックス線吸収法(DEXA)などの方法によって、骨密度は測定できるようになってきましたが、これらの方法では骨密度は分かっても、骨の強度を決めるもう一つの要素である骨質の評価まではできません。

■定量的CTを用いた3次元有限要素法による骨強度予測評価

当科では3年ほど前から、定量的CTを用いた3次元有限要素法による骨強度予測評価を行っています。東北大学病院では、2009年3月より「定量的CTを用いた3次元有限要素法による骨強度予測評価」が先進医療として正式に認定されました。有限要素法は、ビルや橋などの建築物の耐震設計や、航空機の翼の強度予測などに広く使われている手法です。複雑な構造体全体を、多数の細かいメッシュに分割してコンピュータでシミュレーション解析します。色々な構造体を、有限な個数のメッシュ(要素)に分けて解析を行うことから、「有限要素法」と呼ばれています。複雑な構造体でも単純な形状をした要素の集合体として解析することで、骨の強度を精密に予測することができます。

現在私たちが行っているのは、この有限要素法を骨に応用した新しい骨強度の診断法です。それぞれの患者さんのCTを撮影し、そのコンピュータ情報をもとに骨の3次元モデルを作成します。そのモデルの各要素に、CT値から算出した骨密度や材料特性を入力します(図1)。こうして作成したモデルにいろいろな力をかけて、骨折が起きる荷重を調べます。作用する荷重の量、部位や方向は自由に設定できますので、歩行や転倒などをシミュレートして、それぞれの状況に応じた骨強度を評価することが出来ます。また同じ骨密度の骨であっても、形状は個々の患者さんによって違うので、患者さんごとに骨の構造、形態の違いも含めた骨強度診断ができます。例えば、大腿骨の場合だと、頸部角や骨幹部の湾曲の程度も考慮して骨強度診断が出来るようになります。

■対象疾患

この先進医療の対象になる疾患は、骨粗鬆症、骨腫瘍、骨変形、搔爬術後の患者さんです。

■患者さんにかかる負担

患者さんご自身に受けていただく検査は、従来の単純CT検査のみです。撮影時に骨密度を計測する基準となる、キャリブレーションファントムを同時に撮影します。そのCTデータをもとに骨強度解析を行います。先進医療として認定されたことから、一回の解析に伴い35,000円を先進医療費として患者さんに負担していただく必要があります。

ただし、CT検査については従来通り健康保険適応の検査となります。

本検査法では、骨強度に影響を与える多くの要因を考慮して、骨折を起こす荷重や骨折の発生部位を、精密に予測することが可能です。骨折予防の観点から、患者さんへのメリットが非常に大きいと考えています。是非、積極的にご利用ください。

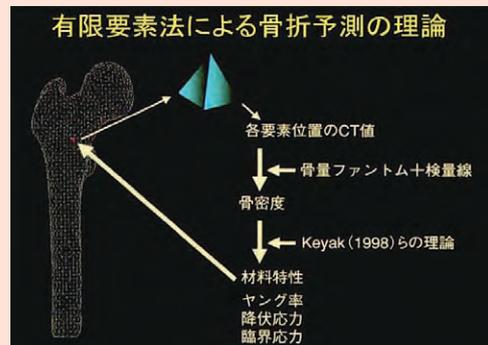


図1 CTから3次元モデルを作成する



図2 大腿骨骨幹部腫瘍

左: CT冠状断像
中: 有限要素法による骨密度分布
右: 骨折予測図

●お問い合わせ: 整形外科外来 TEL 022-717-7747 (直通)

＋SERIES / 認定看護師のご紹介

認定看護師とは、「看護ケアの広がりや質の向上を図るために、日本看護協会が認めた特定の分野における熟練した看護技術と知識を有する看護師」をいいます。現在は17の認定分野があり、当院では、13分野17名の認定看護師が「実践」「指導」「相談」の役割を果たすべく活動を行っています。今回は、緩和ケア認定看護師の活動を紹介します。

第11回：手術看護認定看護師

手術看護認定看護師 軍司 希

皆さんは「手術看護」と聞いてどんなイメージをお持ちですか？

手術看護の目的は「手術中の患者さんの安全・安楽を守り、手術を円滑に進めること」です。例えば、術後に褥瘡や神経障害を発生させないように手術中の体位を工夫したり、体内に異物が残らないように使用物品の確認を行うことなどがあげられます。また、麻酔で自分の意志を伝えられない患者さんの代弁者となることも重要な役割のひとつなので、手術前、手術後に病床へ訪問し、患者さんのお話を伺っています。

昨今、手術を受けられる方は、胎児から80～90代の高齢の方まで幅広く、合併症や様々な障害を持つ方も少なくありません。また、医療機器などがどんどん進化した、手術が高度化しています。そのような中において看護師は、多職種がチームで働く場でのマネジメントの役割も担っています。そのため、手術看護は非常に専門性が求められる分野なのです。

私は認定看護師として、看護師が患者の立場に立ち、日々進

化する治療に安全、確実に対応できるよう実践的な指導や、最新情報を盛り込んだ講義を行っています。病棟の看護師に向けても、手術看護セミナーの開催や、各部署からの相談対応など、看護全体の質の向上を目指しています。

さらに当院では、広く市民の皆様へ大学病院を知っていただくため、年5回程「病院公開見学会」を開催しています。その中の施設見学として、10分程度、実際に手術室に入らせていただき様々な案内をしています。手術で使用する医療機器などを見ていただきながら看護ケアを説明し、体感することで参加者の方からは概ね好評をいただいています。



軍司 希
手術部
手術看護認定看護師



INFORMATION

小児センターのご紹介

このたび東北大学病院東・西5階が「小児センター」として位置づけられるようになりました。

これまで基本的に西5階病棟は「小児科・小児腫瘍科」、東5階病棟は「小児科・小児外科・形成外科・歯科」としての診療科の割り振りを中心とした病棟運営でした。これからは泌尿器科、耳鼻科、脳外科、眼科、整形外科、皮膚科等のお子さんたちの入院にも利用していただくことで、東・西5階フロアを総合的小児医療部門と位置づけ、そのお子さんたちとご家族のかたのアメニティ及びQOLの向上を図ることを目的としています。

具体的には東・西5階病棟は乳幼児の沐浴槽やプレイルームなどの設備があり、院内学級もあります。また同じフロアで小児科医・小児外科医が働いていることで、主治医の先生からの患児の状態についての相談がしやすくなり、小児の看護に慣れたナースが当たるため、小児の患者さんに有利な治療ができることもと考えます。つきそいにあたるご家族もかたも、まわりに同世代のご家族がいることで安心感が高まるかと思えます。

もちろん大学病院という性質を考えますと、高度な医療を提供することが必要です。そのためにその科特有の設備・看

護技術を要する場合も多々あります。よってすべての小児の患者さんを「小児センター」で対応するのが適切とは限りません。そういった場合には主治医の先生の判断で従来どおり泌尿器科、耳鼻科、脳外科、眼科、整形外科、皮膚科の独自の病棟での入院・治療をしていただくことで、そのお子さんの治療に不利益にならないように配慮します。

運用が始まったばかりの「小児センター」ですが、もし小児の患者さんを当院に紹介いただける場合に、この「小児センター」のことをご紹介いただければ幸いです。



西5階病棟 プレイルーム



© 2008 Ikuko Onuma & Sachi Honda
お子様向けに当院オリジナルの入院パンフレットを作成し、配布しています

新患日一覧

※受付時間は8時30分～11時までとなっております。(皮膚科は10時まで、眼科は11時30分までとなっておりますのでご注意ください)
 ※() 内の電話番号は各診療科外来です。 (H21.7現在)

循環器内科 (022-717-7228)	月～金	移植・再建・内視鏡外科 (022-717-7742)	食道外科：水・木	小児外科 (022-717-7758)	月・木
感染症科 (022-717-7766)	月・水・金		血管外科：月・火	皮膚科 (022-717-7759)	月・火・水・金 受付時間(8:30～10:00)
腎・高血圧・内分泌科 (022-717-7778)	水・金	心臓血管外科 (022-717-7743)	移植・肝臓外科：火・金	眼科 (022-717-7757)	月～金 ※予約制 受付時間(8:30～11:30)
血液・免疫科 (022-717-7730)	水・金 ※H21年10月より 完全予約制	整形外科 (022-717-7747)	木・金	耳鼻咽喉・頭頸部外科 (022-717-7755)	月・水・金
糖尿病代謝科 (022-717-7779)	火・金	形成外科 (022-717-7748)	月～金	肢体不自由リハ科 (022-717-7751)	月・水・木・金
消化器内科 (022-717-7731)	火・金	麻酔科 (022-717-7760)	月・水・金 ※術前相談のみ	運動機能再建リハ科 (022-717-7751)	月・水・木・金
老年科 (022-717-7736)	水 ※もの忘れ外来は 完全予約制	緩和医療科 (022-717-7768)	月・木 ※完全予約制	内部障害リハ科 (022-717-7751)	月・水・木・金
漢方内科 (022-717-7736)	水午前・金午後 ※予約制	呼吸器外科 (022-717-7877)	月・水・金	高次機能障害リハ科 (022-717-7751)	月・水・木・金
心療内科 (022-717-7734)	月・水・金 ※完全予約制	婦人科 (022-717-7745) 産科 (022-717-7746)	月～金 ※完全予約制	放射線治療科 (022-717-7732)	月・木・金 ※完全予約制
呼吸器内科 (022-717-7875)	月・水・木・金	泌尿器科 (022-717-7756)	月・火・水・金 ※完全予約制	放射線診断科 (022-717-7732)	CT・MRI検査外来 月～金 インターベンション・画像診断外来 月・木
腫瘍内科 (022-717-7879)	月・水・木 ※完全予約制	神経内科 (022-717-7735)	火・金	加齢核医学科 (022-717-7880)	火・水・木
肝・胆・膵外科 (022-717-7740)	月・金 ※完全予約制	脳神経外科 (022-717-7752)	月・木・金	総合診療部 (022-717-7509)	月～金
胃腸外科 (022-717-7740)	一般新患：月・水・金 ※完全予約制	脳血管内治療科 (022-717-7752)	火・金		
	胃腸悪性疾患：水 ※完全予約制	精神科 (022-717-7737)	月・水・金 ※完全予約制		
	炎症性腸疾患：木 ※完全予約制	小児科 (022-717-7744) 小児腫瘍科 (022-717-7878)	月～金		
乳腺・内分泌外科 (022-717-7742)	乳腺外科：月・水・木	遺伝科 (022-717-7744)	月～金 ※完全予約制		
	甲状腺外科：火・金				

INFORMATION

完全予約制のお知らせ

ご紹介頂く医療機関におかれましては、お手数をお掛けしますが、患者様の待ち時間短縮のため必ず地域医療連携センターでご予約頂きますよう、ご理解とご協力の程、よろしくお願い致します。

産科・婦人科

産科・婦人科は7月1日より
完全予約制となりました。

- ▶ 婦人科新患受付日
リプロダクション外来：月・水
悪性腫瘍外来：火・木
その他：月・水・金
- ▶ 産科新患受付日：月～金

血液・免疫科

血液・免疫科は
10月1日より
完全予約制となります。

- ▶ 血液・免疫科
新患受付日：水・金

ご予約方法

地域医療連携センターに FAX で診療予約申込書をご送付ください。
折り返し 10 分程度で診療予約票を返送致します。
また、お手元に予約申込書がない場合にはご連絡を頂ければ至急 FAX にてお送り致します。
※「診療予約申込書」は HP からダウンロードして頂く事も可能です。

EVENT

車イスが寄贈されました

近年、介護用乗用車、車イス付きタクシーや乗用車で来院される患者様が増加している現状を反映し、この度、財団法人辛酉会から車イス40台を寄贈していただきました。

4月14日(火)に、平則夫理事長が里見病院長を訪れ、「東北大学病院の患者サービスにお役立ていただきたい。」とのお挨拶がありました。

これに対し、里見病院長から「患者様や御家族から、車イスが足りないとの投書をいただいております。大変助かります。ぜひ有効に活用させていただきます。」と感謝の言葉が述べられました。

さっそく、当院正面玄関に新品の車イスが設置され、患者様に大変喜ばれています。



● 編集・発行 東北大学病院 地域医療連携センター TEL：022-717-7131 FAX：022-717-7132
E-mail：ijik002-thk@umin.ac.jp

ご意見、ご要望がございましたら、地域医療連携センターまでお願いいたします。